

Vol. 20

2024.3

ND

キャンパス通信

わたしらしく、誇らしく

Be Notre Dame, Be Myself



京都ノートルダム女子大学
KYOTO NOTRE DAME UNIVERSITY

ND VOICE

ユイカユイエ
2023年度のND祭テーマは「結花結笑」

笑顔あふれるND祭のウラガワを支えるND祭実行委員会をご紹介します



Webサイトでも
「ND VOICE」配信中



A.Y.さん

生活環境学科
3年次生

委員長

委員会全体の動きの指示、外部団体や企業、他大学とのやりとり、各部門の進捗管理など全体の統括を担当



M.O.さん

心理学科
3年次生

イベント
部門長

ブースのイベント企画、景品の決定や各ブース・外部の音響・団体さんとのやり取りなどを担当



S.T.さん

こども教育学科
2年次生

広報
部門長

学祭パンフレットの制作、協賛企業様を探すこと、学祭の写真撮影等の活動を担当



Y.O.さん

心理学科
3年次生

模擬・展示
部門長

出店模擬店・展示の管理統括、各団体とのやり取りなどを担当

来場者も実行委員も全員が楽しめるように 笑顔あふれるND祭となりました

今年度のテーマである「結花結笑」の意味は、「笑顔が増えることで彩り美しい心が咲き、大きく花開いた心と心が結び繋がる」というものです。マスクを外すことが増えたからこそ笑顔いっぱいのND祭にしたいという思いが込められています。

幅広い客層に楽しんで貰える企画を用意するだけでなく、実行委員のみんなも楽しんで企画運営ができるように意識し、一人一人の得意なことを活かせるよう考えて仕事を割り振っていました。遅くまで準備をしていた期間はとても楽しく、思い出に残っています。そして一番喜びを感じたのは、当日お客様のわくわくしている様子や、楽しそうな笑顔を見れた時です。頑張ってきて本当に良かったと思いました。

今後は、ND祭を盛り上げるという1つの目標に向かってやり遂げた経験を活かして、更に新しいことに挑戦していきたいです。

テーマは来場者全員が楽しめること 実現できたのは、周囲の協力があったから

私はイベント部門長として、中庭ステージの運営を円滑に進めることに注力しました。大学生だけでなく、小さいお子さんからお年寄りまでたくさんの方々に楽しんでいただけるイベントにすることを心掛けました。

ND祭を通して、普段の大学生活では関わることの少ない他学科や他学年の学生と話すことができ、本当に良い子ばかりで、仲良くなったことが嬉しかったです。また、今年は三大学合同企画を行いました。京都府立大学、京都工芸繊維大学と一緒に景品制作や顔はめパネル制作、各大学の文化祭のお手伝いなど一致団結して成功させることができました。

大変なことも楽しいことも沢山ありましたが、当日は大きなミスもなく終えることができ、本当に良かったです。企画、運営、外部団体さんとのやり取りはとても勉強になったので、この経験を今後の社会生活で活かしたいと思います。

みんなで一緒に創り上げるND祭 一人じゃないから最後まで走りきれた

広報部門は仕事量が多く、期日管理やスケジュールング、広報部門のメンバーへの進捗確認や指示出しが難しかったのですが、みんなで協力したと思える学園祭にしたかったため、自分だけが動くのではなく、周りを巻き込みながらみんなで進行することを心掛けていました。当日、問題があった時にはみんなで対応することができ、一体感を感じてとても面白かったです。

特に印象に残っているのは、前日準備や当日のパタパタしていた時に、二年次生がリーダーシップをもって控室準備や買い出しに一年次生と一緒にしてくれたことです。一年次生も「何かやることはありますか」と積極的に動いてくれたりと、皆と共に創り上げているんだという実感が嬉しかったです。

今後も周りの人と協力しながら、1つの目標に向かってやり遂げた経験を活かしていきたいです。

仲間と共に乗り越えた準備期間 当日の達成感は何倍にもなりました

ND祭という大学行事を、幹部をはじめ委員全員で一緒に作り上げることができ、とても楽しかったです。

しかし、模擬店という仕事は決して楽しいことばかりではなく、学内・外問わず40近い参加団体をまとめるのは大変で、連絡・確認事項の徹底を心がけていました。

また、模擬店を出店するうえで必要な資料作成や機材レンタル会社さんとのやり取りなど初めてのことが多く戸惑いましたが、模擬店・展示を出店する団体が安全に楽しく参加することができるよう周りの動きや状況に目を向け準備を進めてきました。

当日は多くのブースがお客様で賑わい、模擬店については完売する団体が多くありました。

リーダーという立場で参加したND祭は、困難なことも多々ありましたが、仲間との絆を深く実感することができたイベントとなりました。

ND祭についてはNEWSページでも紹介しています。 >>> P.15 もあわせてご覧ください

“ 新設置の「女性キャリアデザイン学環」 来たる2025年の始動に向け

女子大学としての真価を問う 主体的に生きていく女性を育成

京都ノートルダム女子大学は、「人が変われば世界が変わる」ということばを掲げ、女子教育の必要を説いて創立されました。「女性キャリアデザイン学環^{※1}」は、その精神を集約した形で設置するものです。本学環は「グローバルな視野と社会の動向への理解のうえに、社会貢献意識をもって主体的に生きていく女性」を育てることを目的としています。上記の設立経緯とも符合する、まさに本学の原点ともいえる教育、研究組織です。女子大不要論が飛び交う昨今ですが、男女格差が厳然と残る日本の社会では、まだまだ女性に特化した教育機関の存在価値は大きいと考えます。本学の使命を集約した新学環を掲げて、女子大としての本学の真価を問いたいという強い思いから、この「女性キャリアデザイン学環^{※1}」を構想しました。

ゼミを通して 自身のキャリアを 追求できるプログラム

新学環は、確実に社会人としての力を身につけたい人、あるいはこれまでの自分を払拭して成長したい人を歓迎します。潜在意欲はあるけれどなかなか前に踏み出せない人をエンパワーし、意欲と自信をもって自己のキャリアを追究していける女性を育成していきます。本学環は、本学の実績あるキャリア教育によりライフキャリアへの理解と意欲を高め、社会活動の基盤となる対話力や自己表現力、ICT活用力を身につける一方、社会活動の方向性を決めていく上で必要な社会学や多文化理解、人間心理などを学際的に学んでいきます。上記の基盤となる力の養成については、ワークショップやフィールドワークをふんだんに取り入れた実践授業を体系的に据えています。海外活動や地域や企業との連携活動を豊富に経験させるカリキュラムを特徴としています。女性キャリアデザイン学環^{※1}の構想の源泉は、英語英文学科 Herder先生の「女性リーダー養成」ゼミでした。大学生活後半2

イン学環^{※1} て ”

PROFILE

京都ノートルダム女子大学 学長
生活環境学科
中村 久美 教授

1981年奈良女子大学家政学部住居学科卒業。2006年奈良女子大学大学院人間文化研究科博士後期課程修了。博士(学術)。奈良女子大学生生活環境学部助手を経て1999年京都ノートルダム女子大学人間文化学部助教授、2007年生活福祉文化学部教授、2014～2016年生活福祉文化学部長。2017～2019年副学長。2019年1月学長に就任。専門は住居学、建築計画学。2016年度家政学会賞受賞。京都府住宅審議会委員ほか



年間、目いっぱい学生をエンパワーして社会に送り出す本ゼミのエネルギーを、新組織にも注入しています。本ゼミ以外にも本学は、全学科、学環に卒業研究があり、3年生、4年生の2年間所属することになるゼミがあります。学生にとって大学生活の成果の大きな部分はゼミでの活動、経験によるといえます。本学はこの数年をかけて整備し、卒業研究をゴールとした学びの道筋を構築してきました。それぞれの専門能力と社会人としての基礎能力の養成はもちろんのこと、小規模大学であるからこそ、指導教員との、あるいはゼミ生同士の対話によるエンパワーメントを重視しています。

京都ノートルダム女子大学が 目指す方向性 ——学部再編の大きな波を迎えて

社会情報学環^{※2}に次いで、この女性キャリアデザイン学環^{※1}を設置することで、これから日本が目指していく女性活躍社会の担い手を輩出する大学としての、本学の方向性を示してきたといえます。結果的に2025年4月の時点で2学部5学科2学環という形になるわけですが、この2学環を際立たせて大学の方向性を明確化する意味でも、大学運営の合理性からいっても、既存5学科をもう少し大きくり再編していくことを検討していきたいと考えています。同時に先行設置した社会情報学環^{※2}を、そのコンセプト「文系女子の情報学・データサイエンス」を活かしながら、新たな理系要素を盛り込んでさらに充実、発展していく方向を模索していきます。これからの本学の教育活動にご期待ください。

2025年度の教育組織図



2024年2月時点の情報であり、変更の可能性あります。

※1 2025年4月開設予定(変更となる可能性があります)
※2 2025年4月名称変更予定(現:社会情報課程)

01 巻頭特集
ND VOICE
ND祭実行委員会

03 TOPIC
新設置の
「女性キャリアデザイン学環」
来たる2025年の始動に向けて
京都ノートルダム女子大学 学長
中村 久美 教授

05 学生INTERVIEW
青木・大風ゼミ 今西製菓コラボ
藤原・加藤ゼミ モリンガススイーツ考案
鷲見ゼミ 福井県とのコラボ展示
Happiness ft. 学生ダンサーズ
(ダウン症ダンスサークルとのダンス発表)

07 海外ボランティア体験レポート

09 研究者インタビュー
国際日本文化学科 鷲見 朗子 教授
こども教育学科 古庵 晶子 准教授

10 NDと社会

11 先生たちに聞いてみた

12 NDの本
2023年度京都ノートルダム女子大学
研究助成金研究成果報告

13 Events Diary

15 NEWS

17 INFORMATION

18 SCHEDULE

学生 INTERVIEW

本学では、さまざまな活動で学生が活躍しています。
今回はND祭に出展したゼミ・グループの活動を紹介します。

まだ食べられる廃棄予定の飴を再利用
お菓子にリメイクし、模擬店で販売

生活環境学科
家族関係ゼミ/ライフプランニングゼミ



食品ロス削減プロジェクトは、株式会社Tnさん、今西製菓さんの協力のもと、私達ゼミが「まだ食べられるけど商品には適さないため、破棄する飴」を再利用するという企画です。ゼミのメンバーで考案したお菓子をND祭で販売することになり、私はチームリーダーを務めました。「再利用する飴」をどのように生かして商品化するかということに躓いたのですが、試行錯誤を繰り返し、細かく砕いて溶かした飴をかけたキャンディポップコーンや、ゼリーとソーダの中に細かく砕いた飴を入れたカラフルソーダなど、計4種類の商品を作ることができました。今回の活動は社会全体から見たら小さいことかもしれませんが、少しでも社会に貢献できているんだとやりがいを感じました。



生活環境学科 3年次生
Y.O. さん

Q この活動のきっかけは？

A 日頃食品ロスに関して問題意識を抱いていたところ、先生方のお力添えもあり、企業とコラボしてこの企画が実現しました。

Q 食品ロス解決のために大事なことは？

A まずは自分が食べ残しを減らすことや、買い物の際に商品を手前から取ることが食品ロスを無くす第一歩になると思います。

福井県と本学が2022年1月に就職支援協定を結んだことをきっかけに、「福井県の観光」をテーマにND祭でブースを出展しました。福井県京都事務所から福井県と一緒に盛り上げていきたいとお声掛けいただき、観光はゼミの研究分野にも含まれていたため、この活動が始まりました。実際に福井県を訪れて魅力を体感し、越前市で開催される夏祭りイベント企画とそれに伴う宿泊者数を増加させるための具体的な課題解決案を提示し、最終的にはND祭でパネルにして、のべ550名を超える来場者に見ていただきました。この活動を通して、観光業に携わっている方とリアルタイムでお話出来たこと、同じ目標に向かって取り組めたことはとても貴重な経験になりました。



国際日本文化学科 3年次生
Y.K. さん

Q 難しかったことや工夫したことは？

A 予算等の具体的な課題解決案を出すことが難しかったです。あらゆる角度から解決方法を考え、視野を広げることができました。

Q 福井県のアピールをお願いします。

A 福井県は2024年放送の大河ドラマ「光る君へ」の舞台となるほか、北陸新幹線も金沢-敦賀間が開通します。是非、楽しんでください。

福井県の観光産業を盛り上げるため
課題解決策を提案し、ND祭でもアピール

国際日本文化学科 鷲見ゼミ



スーパーフード「モリンガ」を使った
スイーツを考案し、ND祭で販売

生活環境学科 モリンガゼミ(藤原ゼミ・加藤ゼミ)



産学連携活動として、株式会社MIYACO様が提供してくださったモリンガ(スーパーフード)を活用し、日常食を開発する取り組みに参加しました。モリンガ特有の苦味とピリ辛感を和らげつつ、多くの方に食べてもらいやすい焼き菓子をゼミで考案しました。もう一つの「モリンガの知名度を上げる」という目標達成のため、ND祭で自分達が開発した「マドレーヌ」、「マフィン」、「クッキー」、「どら焼き」を販売することになりました。最初はお客様に認めてもらえるのか不安でしたが、フライヤーを手にとって説明を聞いてくださり、モリンガに興味を持ってもらえたことで、とてもやりがいを感じました。



生活環境学科 3年次生
W.P. さん

Q 活動の中で苦労したことは？

A 人によって苦みや辛みの感じ方が違うので、商品に入れるモリンガの量を決めるのが難しかったです。何度も試作を重ねました。

Q ゼミのいいところを教えてください。

A 生活環境学科は産学連携の活動が多く、企業の方から指導いただき、自分の力を鍛えることができます。各ゼミは少人数なので、自分の意見も発言しやすいです。

ダウン症の友達から「ダンスボランティアに来てほしい。」とお誘いを受けたのが、「京都ダウン症ダンスサークルHappiness」との出会いです。コロナ禍で発表の場が減ったと聞き、「ND祭のステージで踊ってもらおう」と思い立ちました。ダンスが好きで、特別支援教育を勉強している学生にも協力してもらい、ND祭ではHappiness x 学生ダンサーによるこの日限りの特別ステージを披露しました。学生にとって初めてのステージ。練習できる時間が少なくドキドキで迎えた本番でしたが、みんなで元気いっぱいステージを終えることが出来ました。



こども教育学科 3年次生
C.T. さん

Q 活動の一番の面白さ・魅力は？

A Happinessの皆さんは、本番に強い!!皆さんのキラキラ笑顔に緊張もふっ飛びました!!

Q 読者へのメッセージをどうぞ

A 「京都ダウン症ダンスサークルHappiness」は、京都を中心に活躍中です。Instagram、更新中!!フォロー、お願いします。



ダウン症ダンスサークルの方々と
ND祭のステージでダンスを披露

Happiness ft. 学生ダンサーズ



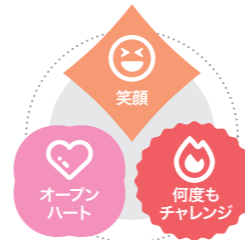
海外ボランティア

体験レポート

NDの海外ボランティアとは？

コロナ禍や円安の影響で足踏みしていた留学や研修など、海外での学びをより活性化するため、国際ボランティア活動参加のプログラム化を検討しています。今回はそのプレ体験として、学生8名をベトナムに派遣しました。

ボランティア参加は英語が苦手な人でもOK！
出発前にi-Spaceで英会話力をアップしよう！



ボランティアの極意



ボランティア経験は人格の形成や成長に有益なことはよく知られており、海外ボランティアはそこにプラスして、語学の上達や貴重な異文化交流の経験を積むことができます。今の自分よりも成長するには、勇気を出してコンフォートゾーンから飛び出す必要があります。そうして挑戦した全ての学生が、この海外ボランティアを通して必ず成長すると信じています。次回、2024年2月の海外ボランティアの行き先はタイになりました。これから参加する学生は、さらに自信を持って参加してほしいと思います。

スティーブンハーダー
Steven Herder 英語英文学科教授 兼 国際教育センターセンター長



参加した学生の声

ボランティア実施地域

★ ベトナム ホーチミン市

実施期間

2023年8月20日～9月3日(15日間)

実施プログラム

- Childcare**
幼稚園で子ども達のお世話や英語教育の手伝いを行います。
- Special Needs Care**
障害児の療育施設でアクティビティやストレッチなどの手伝いを行います。
- Food Outreach**
食糧支援を目的として運営している食堂で配膳を行います。



世界に貢献することで、
自分自身も成長することができる

英語英文学科 4年次生 H.N. さん

参加プログラム Childcare

Q. 参加のきっかけは？

A. 友人と先生からお誘い頂き、手ごろな金額だったこと、幼少期の頃に愛読していた本に登場する偉人のように、いつか海外ボランティアで世界に貢献することが目標であったため、参加を決意しました。

Q. 現地での楽しかったことは？

A. ベトナム式の洗濯を体験出来たり、食べたことのない食べ物を食べることが出来たり、上げるときがないほど多くの新しい経験を得ることが出来ました。

Q. 自身が成長したポイントは？

A. 人前で発表できる力を身につけたことです。ボランティア後の報告会では、大勢の方々の前で自分が作った動画を流し、想いや考えを言葉にして伝える機会がありました。私は元々人前に出ることが大の苦手なのですが、このボランティアでの様々な経験が自信につながったと思います。

Message

ボランティアを通して得た経験すべてが、今後の人生の財産となります。必ず、みなさんの成長につながる沢山の栄養を吸収できます。少しでも興味があれば、思いきってその一歩を踏み出してくれたらと思います。



一方的なボランティアにならないよう、
心掛けました

英語英文学科 4年次生 K.I. さん

参加プログラム Special Needs Care

Q. 参加のきっかけは？

A. 私は元々ボランティア活動で世界に貢献したいと考えていました。このプログラムで英語力を高め、多国籍の仲間と生活できることに魅力を感じ参加を決めました。

Q. 現地での楽しかったことは？

A. ボランティアの帰りに皆でローカルのスムージー屋さんに寄ったり、休日にはお友達とベトナムのメコン川のツアーなどに参加したことが楽しかったです。

Q. 自身が成長したポイントは？

A. 何処までが必要とされるボランティアなのかという判断ができるようになったことです。彼らの思いを最優先に一緒に楽しく生活を手助けさせてもらっているという意識をもってボランティアに取り組みました。そうすることで子供たちも快く私たちを受け入れてくれて、彼ら自身のびのびと過ごせていました。ボランティアは「やってあげる」と思いがちですが、そうではないことに気づき大きく成長しました。

Message

ボランティアができるだけでなく、英語力アップ、全世界の人たちと仲良くなれる最高の機会です。一歩踏み出してみましょう！



英語力の不安はどうにでもなる！
是非参加して欲しいです

国際日本文化学科 3年次生 A.H. さん

参加プログラム Food Outreach

Q. 参加のきっかけは？

A. 私が所属している学科にはベトナム人留学生が多いため、一度訪れてみたいという思いがありましたが、最初は少し躊躇する気持ちがありました。ハーダー先生から英語が話せなくてもコミュニケーション力が大切だと言ってもらえたこと、団体で行くため一人ではないということが背中を押してくれました。

Q. 現地での楽しかったことは？

A. 沢山の国からボランティアに訪れた人達と出会えたことです。異なる文化を持った人との交流はとても楽しかったです。

Q. 自身が成長したポイントは？

A. 初日のオリエンテーションでは、リスニング力の無さとベトナム訛りの英語で半分も理解できなかったのですが、1週間後の話し合いの時に言っていることが何となく理解できるようになりました。

Message

行って後悔することはないです。英語ができなくても行ってみたい何かなります。一緒に行く人に頼ることもできるので、少しでも興味のある人は行くことをおすすめします！



研究者インタビュー

多彩な研究分野を持つ本学の教員たち。今回は2023年度の科学研究費助成事業に採択された2名の先生方の研究をご紹介します。

もう一つのアラビアンナイト「百一夜物語」——ジェンダー論的分析

男女の愛憎や欲を描いたアラブ物語文学 ミソジニーに隠されたミサンドリーを分析する

博士論文でテーマとした古典アラブ詩に加え、アラブの物語文学にも興味を抱き、特に北アフリカで伝承された百一夜物語を研究対象にしています。この物語集には様々な内容の物語が含まれており、現在はミソジニー(女嫌い、女性蔑視)とミサンドリー(男嫌い、男性蔑視)という、これまでほかの研究者があまり目を向けてこなかった点に注目しています。内容の考察もしていますが、7つほど確認されている写本テキスト(近代以前は印刷技術が発達していないため

書き写していた)の分析もしており、手書きのアラビア語なので、読み取るのが難しいです。しかし、読者と思われる人の書き込みもあり、写本に関わった人たちの息遣いが伝わってきそう、それらを調査するのはとても面白く、やりがいを感じています。百一夜物語を扱った私の論文が、アラブ文学を専門とする主要国際学術誌に掲載予定となり、励みになっています。近い将来、百一夜物語の写本の校訂本を刊行したいと願っています。

■ 科研費概要 ■

- 研究課題 百一夜物語におけるミサンドリー：「王子と七人の大臣の物語」のジェンダー論的分析
- 研究種目 基盤研究(C)
- 研究期間 3年
- 研究分担者 なし



鷺見 朗子 教授 Sumi Akiko
国際日本文化学科

ノートルダム女子大学卒。ミシガン大学アンアーバー校M.A.、インディアナ大学ブルーミントン校Ph.D.。在レバノン日本国大使館専門調査員を経て、母校である本学へ奉職。専門はアラブ文学とアラビア語教育学。

何歳からでもピアノに挑戦する人を応援したい 高齢初心者がより学習しやすい練習方法を研究

高齢期に初めてピアノ学習を開始した学習者に、演奏途中で何度も止まって1曲をノーミスで弾き通せない傾向があるのは、加齢による様々な能力の低下が引き起こしているであろう「楽譜—鍵盤間の視線の無駄な動き」と「合理的な運指」に原因があるようです。視線計測装置で演奏エラーの状況を明らかにし、改善するための学習方略を見出すのがこの研究の目的です。情報工学がご専門で演奏を科学的見地から研究されている、公立はこだて未来大学の竹

川佳成教授と組むようになり、ピアノ奏者や音楽教育者としての活動だけでは決して得られないことの連続で、とても刺激的に過ごしています。また、高齢者のピアノ演奏特性と、保育・教職課程のピアノ初心者学生を比較することで、ピアノ指導者としての自分の指導理念をより高めていけると思います。今後は、従来のスタンダードな考え方ではなく、研究に裏付けされた新しい考え方による、高齢初心者用のピアノ教則本を作りたいと考えています。



古庵 晶子 准教授 Koan Akiko
こども教育学科

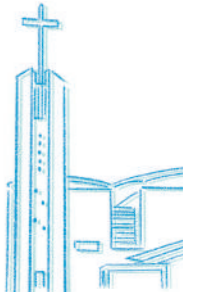
神戸大学大学院教育学研究科修了(教育学修士)。数か所の大学にて非常勤講師、専任講師、本学旧心理学部専任講師を経て現職。専門は音楽教育学及びピアノ演奏。

■ 科研費概要 ■

- 研究課題 読譜視線計測に基づく演奏ミスの改善—高齢者ピアノ学習を中心として—
- 研究種目 基盤研究(C)
- 研究期間 3年
- 研究分担者 竹川 佳成(公立はこだて未来大学)

高齢期のピアノ初心者への指導法研究——演奏エラーの改善と学習方略

NDと社会



本学は地域連携・産学連携をはじめとした社会貢献活動を行っています。今号は2023年度からスタートしている取り組みをご紹介します。

▶ 株式会社G-Placeとの産学連携事業「誰もが快適な生理を」 2023年8月3日(木)

心理学科の3つのゼミの有志学生14名が、8月3日に大阪で行われた「Femtech Japan Femcare Japan 2023 in OSAKA」のイベントに参加しました。

当日は「誰もが快適な生理を—京都ノートルダム女子大学のフェムテックの取り組み」と題したセミナーに3名の学生が登壇。心理学科の下田麻衣講師がファシリテーターを務め、本学で実施したナプキン無料配布の感想や、この取り組みを行ったことによる意識や行動の変化について率直な意見を述べました。また、「出展ブース」の一つとして本学の取り組みや調査結果をまとめた展示の機会を頂き、来場者との質疑応答を行いました。学生達は調査結果について説明し、フィードバックに大いに刺激を受けました。さらに本学学生が当日の総合司会を務め、30近い出展者へのインタビュー、セミナーへの登壇と、多方面で活躍してくれました。



▶ 学生によるKIND日本語教室を開講 2023年10月3日(火)~12月5日(火)

日本語教員養成課程*履修生が「日本語教育実習(日本語教育実習II)」の一環として、京都工芸繊維大学の外国人留学生・外国人スタッフおよびその家族のために初級・中級の「日本語教室」を開講し、日本語と日本文化、サブカルチャーを教えました。2013年より毎年行われていましたが、新型コロナウイルスの流行により2020年は未開講、2021年はオンライン実習になり、2022年から対面実習を再開しました。今年度は履修生9名が初級と中級の各クラスの教壇に立ち、50分授業を計5回担当しました。授業担当の学生以外は留学生らと同じ授業に参加し、気がついたことをメモしたり、留学生の演習パートナーとして参加します。受講生により興味を持ってもらえるよう実演形式を取り入れるなどの工夫をこらし、教室は活気にあふれていました。 *日本語教員養成課程とは、日本語を母語としない学習者に日本語を教える教員を目指す学生に開かれる課程のこと。



▶ 「自然と遊ぼう」 2023年11月5日(日)

2006年から継続的に開催してきた「自然と遊ぼう」を、4年ぶりに宝ヶ池公園桜の森で開催しました。1~4年次生まで22名(こども教育学科16名、心理学科6名)の学生ボランティアが集まり、10組26名(子ども13名、保護者13名)の参加者ご家族と、自然観察や造形遊びを満喫しました。参加者からは「普段はこんな自然環境で遊ぶことがないので、とても良い時間だった」というお話や、事後アンケートで「学生さんが子どもの成長に合わせた優しい声かけをしてくれたので、子どもが安心して楽しめていた」など、学生の頑張りに対する暖かい言葉を頂きました。また学生からは、「こどもの想像力の豊かさを改めて感じた」「子どもさんから元気ももらって、活動はあっという間。充実した時間を過ごせた。」などの感想があり、学生にとっても貴重な経験となりました。



▶ 学生考案企画が京都市左京区のイベントに採用 2023年11月23日(木・祝)

京都市左京区役所が区内大学に向けて募集した「謎解き&宝さがし企画」に本学の学生有志が応募し、企画が採択されました。国際日本文化学科の学生9名が夏休み期間中に考案したもので、本企画のため、オリジナルの宝ヶ池のマスコット「タッシー」を発売。この「タッシー」のストーリーを背景にウォーキングしながら楽しめる謎解きクイズ、宝さがしを企画しました。第30回左京区民ふれあいウォーキング「失われた宝を探せ! in 宝ヶ池公園」イベント当日は、朝10時から1時間毎に計5回のウォーキングが実施され、事前に申し込みがあった83名の参加者のガイド役として活躍。参加者は、各スポットでのヒントを元にクイズを解き、宝箱の鍵を開けて楽しみながらウォーキングをしました。獣害被害など宝ヶ池公園を取り巻く問題などもクイズに取り入れるなどの工夫を凝らしたイベントは、後日左京区長より表彰を受けました。



先生たちに聞いてみた

本学には英語のネイティブ教員が多く在籍しています。今号は英語力を鍛える、イメージスペース(i-Space)をプロデュースするイザベル先生にお話を聞きました。

Isobel Hook

楽しいイベントも盛りだくさん！いつでも気軽に遊びにきてください



イザベル フック
Isobel Hook 先生
Australia

英語学習で大事なことはモチベーション、教室外での実践、そして諦めないこと

イメージスペース(i-Space)は、学部や学年、言語レベルの垣根を超えて、新しいことに挑戦し、人々とつながることができる場所です。私はここでイベントを企画したり、英語を教えています。

英語教室で働いていた時、高いモチベーションを持つ学生はよりよく学ぶことができると気づき、私は学生にそれらを与えたいと思うようになりました。そしてTESOLを専門とする教育修士号を取得し、現在はセルフアクセス言語学習、学生のモチベーションと自己効力感の研究を専門としています。

ほとんどの学生は他者とコミュニケーションをとるために、英語を学びます。しかしそのためには、完璧な文法や語彙の使い方は必要ありません。必要なのはモチベーションと諦めないことです。

i-Space は全ての学生のための居場所です。どなたでも是非、お越しください。



Welcome to i-Space!

i-Spaceとは？

学生の語学力向上と異文化理解を目的としたスペースです。このスペースで使用して良いのは、英語をはじめとした外国語のみ。自分の世界を広げるために遊びに来ませんか？

外国語 ONLY!

英語イベント -English Activity-

語学力向上+異文化理解

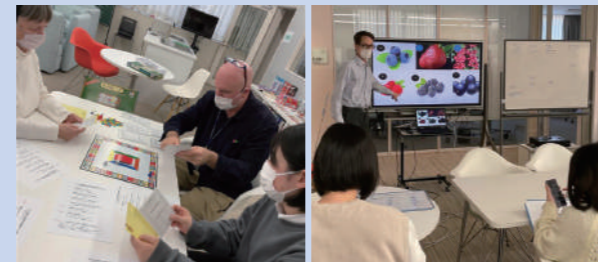
- ランチタイムチャット
- ランチタイムヨガ
- クラフト&デコパーティー
- Cooking & Baking
- Games and Board Games
- Listen & Learn
- Guest Speakers
- 日本語café
- 旧正月・七夕・ハロウィン・クリスマスパーティー



英語学習サポート

語学力向上

- TOEIC Club
- B2B(Back to Basics)
- 英語学習相談
- 英語多読
- 語学試験サポート
- 映画鑑賞
- TOEIC Practice Listening Test
- Writing Support
- Virtual Exchange →他大学とのZoom・オンライン交流
- English Support →イザベル先生による個別指導



私たちがサポートします



英語多読・英語学習のサポートをしています。本や音楽を使って一緒に楽しく英語を学びましょう！

ジョディ キャンベル
Canada Jodie Campbell 先生



i-Spaceには様々なバックグラウンドの人が集っています。異文化理解もできるi-Spaceと一緒に世界を広げましょう！

ニカン サーデバンディ
Iran Nikan Sadehvandi 先生



多くの学生がi-Spaceで英語力を伸ばしています。ぜひi-Spaceに足を踏み入れてください。みんなあなたの参加を待っています！Just be yourself!

スティーブン ハーダー
Canada Steven Herder 先生

NIDの本

本学教員が発刊に関わった書籍を紹介します。

肢体不自由児の心理

編著：金森克浩・大森直也
出版社：ミネルヴァ書房
発行：2024年2月

特別支援学校教員として必要な知識を網羅した一冊
特別支援学校教員免許におけるコアカリキュラムに対応した教科書として、肢体不自由児の心理の基礎と特性を学べるだけでなく、学校現場で生かされる知識も身につけることができます。理論、実践の両面から見た、教員として必要不可欠な内容を詰め込んだ書籍となっています。

太田 容次 准教授 こども教育学科

特別支援学校の現場でみられる肢体不自由児の理解や障害特性を基礎から学び、コミュニケーション支援の方法や地域での生活を考えるためのヒントが書かれています。私はキャリア発達の見点から就労と地域生活(p.178-190)について執筆しています。是非、現場で活かして欲しいと思います。

文化のポリフォニー



著者：石川裕之・大風薫・青木加奈子・岩崎れい・鎌田均・河野有時・朱鳳・蜂矢真弓・藤原智子・吉田朋子
出版社：かもがわ出版
発行：2023年10月10日

一つのテーマを様々な分野から研究し、より理解を深める
タイトルの「ポリフォニー」とは音楽用語で、それぞれのパートが独立してメロディを奏でる多声音楽のことです。本書においても、学際的な研究を展開している人間文化専攻の特色のとおり、多彩な専門分野の教員が「文化」と「人間」を主題として、自身の研究について紹介しています。

藤原 智子 教授 他
人間文化研究科人間文化専攻教員

異分野間の交流が盛んな人間文化専攻の特徴を一冊の本からどのように伝えていけるか、全員で何度も議論を重ねました。様々な視点を持つ研究者同士が日常的に接することで、新たな気づきが生まれ、自身の研究がより活性化していく楽しさも読者に伝わることを願っています。

2023年度 京都ノートルダム女子大学研究助成金 研究成果報告

研究テーマ 地域住民の主体性をはぐくむための取り組み(福祉教育実践)について、特に小地域に着目した研究

研修期間 2023年5月27日～6月5日 研修先 デンマーク、スウェーデン、ドイツ

国外研究助成金(短期) 2週間程度の国外での学会発表や研究・調査に対する、大学から本学専任教員への研究助成金



酒井 久美子 教授 生活環境学科
同志社大学大学院文学研究科社会福祉学専攻
博士後期課程単位取得後退学

Q. 研修について教えてください。

福祉先進国と呼ばれる各国の福祉施策や施設の内容等について共通点、相違点等を検討するとともに、日本で活かす可能性について検討するため、福祉先進国であるデンマーク、スウェーデン、介護保険制度を導入しているドイツにて、主に高齢者施設、その他障害者施設、幼児教育の現場を訪問し、各国の福祉現場を視察しました。

Q. 研修を踏まえて、今後の展望を教えてください。

デンマークでは、幼少期から自由、平等、博愛、共生、連帯をキーワードとして真の民主主義を身につけています。このような国民性が、利用者だけでなく施設職員一人ひとりの尊重につながっています。このような考え方や取り組みを日本の福祉現場でどのように取り入れることができるのかについて検討していくことを今後の研究テーマとして考えており、帰国後、同じ研修に参加した方が働いている施設訪問等を行いました。次年度も継続して取り組む予定です。

NDのイベントに密着 Events Diary

2023年9月～12月に実施した、学内イベントの一部をご紹介します。

2023 9.22 前期卒業式・学位授与式を 挙行了しました。

聖堂にて令和5年度前期卒業式が執り行われ、学部生5人が卒業しました。中村学長から「日本の社会は、ジェンダーギャップが主要先進諸国で最下位の社会。また、気候変動、食料危機など人類史上大変な時代にあるが、その中であっても、ささやかでもなにかの貢献を社会にしたいという意欲を持ちつつ、自分の幸せを自分でつかみにいってほしい」と祝辞が述べられました。



2023 10.15 第13回英語スピーチコンテスト

第13回英語スピーチコンテストが4年ぶりに対面で開催されました。今年は一次選考に応募があった67件のうち、入賞12名のスピーチが披露され、大阪産業大学附属高等学校の生徒が最優秀賞を受賞。コンテスト後は希望者を対象に、イマージョンスペースにて飲み物と軽食を食べながら本学の教員・学生と交流を深めました。



2023 12.19 ノートルダムクリスマス

ノートルダム学院小学校・ノートルダム女学院中学高等学校・京都ノートルダム女子大学の3校合同によるノートルダムクリスマスが開催されました。学外の方にも来場いただく形式では4年ぶりの開催です。3校の生徒・学生によるナレーションに合わせて、舞台上で小学校の生徒・本学学生が聖劇を演じました。聖ヴィアートル修道会ウィリアム・セルジュ神父様のお話に耳を傾け、キリスト降誕を祝う時間をともにしました。



9
Sep.

10
Oct.

11
Nov.

12
Dec.

2023 9.2 9.30 10.14 11.18 文系女子大学が提案する DXリカレント講座

地域・一般の方に向けて、9月から11月にかけて4回開催したDXリカレント講座。生成系AI(ChatGPT等)の歴史をはじめ、機械学習の仕組みの解説、本学での活用事例を紹介しました。この講座は、京都市の「ふるさと納税を活用した大学における地域連携等推進事業」の一環として開催され、全日程でのべ82名が受講しました。



2023 11.26 生活環境学科公開講座

「コスチュームデザインの世界 —装いの心理的機能とその効果に着目して—

生活環境学科主催で、「コスチュームデザインの世界」と題した公開講座を実施しました。オペラ舞台衣装デザイナー・地域デザインプランナーの松田優先生から、関わった作品の紹介をとおしてデザイナー視点で演者が最高のパフォーマンスを發揮できる衣装づくりについて講演いただきました。





第62回ND祭『結花結笑 ~心を結ぶ、笑顔の花~』を終えて

(ND祭実行委員長 生活環境学科 3年次生 A.Y.)



今年度のND祭は、学内のみならず外部の団体も数多く出展し、沢山の来場者様のご参加もあり、大学内のクラブやゼミのこれまでの活動の良さ発表の場になるなど、大盛況の中で終わることができました。1日目にお笑いライブとビンゴ大会を行い、メインゲストに浅越ゴエさん、ギャロップさん、タチマチさんをお呼びし、大いに盛り上がり、来場者の明るい笑顔を沢山見ることができました。2日目は、映画「コンフィデンスマンJP英雄編」ドラマ「リブンの娘」など数々のドラマや映画で活躍されている俳優の瀬戸康史さんによるトークショーを開催致しました。また両日を通して模擬店や展示・発表やバザー、京都府立大学と京

都工芸繊維大学との三大学合同企画もあり、コラボオリジナルグッズまで誕生し、ノートルダム女学院高等学校による出展や、去年同様のファミリーイベントやアイドルライブも開催し、企画が盛り沢山の2日間になりました。私達実行委員の「笑顔いっぱいのND祭をつくりたい!」という願いが叶ったのは、機会を与えてくださった学長先生をはじめ多くの先生方のご協力あってのことと心より感謝しています。2024年度も、さらに皆様楽しんでいただけるイベントを企画できるよう精一杯取り組んで参りますので、今後ともご支援の程宜しく願い致します。



学内4カ所の個室トイレを「みんなのトイレ」にしました

性別で分かれているトイレが使いにくい教職員や学生に対し、選択肢が広がることで少しでも居心地の良い大学となるよう、8月よりユージュニア館2階と4階、マリア館の地階と1階の4カ所の個室トイレを「みんなのトイレ」としました。



京都イブニングロータリークラブから備品を寄贈いただきました

生活環境学科では、焼きたてのパンや焼き菓子、手作り作品の学内販売や展示など、障害者就労支援事業所との協働活動を展開。この活動への支援として、9月6日に京都イブニングロータリークラブから、活動に使用するためのテント2張りとパンフレットスタンド3台が寄贈されました。



「キャリアカフェ」が開催されました

10月から1月にかけてお昼休みにキャリアセンターで「キャリアカフェ」を開催しました。「キャリアカフェ」は、4年次生の内定者が後輩の就職の悩みや不安を共有し、相談相手になってくれるキャリアセンター主催の就職相談イベントで、多くの学生が参加しました。



京都府立大江高等学校 地域創生科の生徒とメタバースを用いた連携授業を行いました

7月14日、京都府立大江高等学校の地域創生科3年生と、「地域」をキーワードにメタバースを用いた連携授業を行いました。イベント当日は大江高等学校の生徒9名と本学の学生6名がメタバース上で交流。大学生は「地方から本学に入学して感じる地元の良さ」を語り、高校生は大江町の鬼伝説の紹介などを行い、遠く離れた場所から自分の分身であるアバターを介してコミュニケーションをとれることに生徒たちも大いに興味関心を持ちました。



左京区民ふれあいまつりに参加しました

9月24日に、左京区役所で4年ぶりに開催された「左京区民ふれあいまつり2023」に、左京区役所との地域連携・地域貢献の一環として学生が参加しました。「放送研究同好会」の4名の学生がイベントステージの司会を務め、出展ブースでは、司書課程を学ぶ学生が「御朱印帳作成ワークショップ」を、メタバースチーム「MAGIE ESPOIR」が「メタバース空間体験コーナー」を出展。今回の左京区民ふれあいまつりを通して、地域の方と触れ合うことができ、大変貴重な体験となりました。



文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度(応用基礎レベル)」に認定されました

本学の学部横断プログラム「情報活用カブプログラム」が、文部科学省「数理・データサイエンス・AI認定制度(応用基礎レベル)」に認定されました。情報社会において必要な情報科学の知識・技能を身につけるとともに、それらが社会に与える影響を理解した上で、新たな情報を作り出し、課題を発見し、その解決に向けて主体的に解決策を検討・実践できる人材を養成します。



(認定の有効期限: 令和10年3月31日)



マレーシア国民大学の学生が来校しました

9月26日、マレーシア国民大学の学生13名と教職員10名が、本学のイスラムに関する授業見学のために来校されました。国際日本文化学科 鷺見朗子教授の「中東文化論」と「アラビア語」にて、マレーシア国民大学学生によるアラブ文化、アラビア語ロールプレイの発表が行われました。その他、本学学生による日本文化の紹介として、折り鶴と一緒に折りました。マレーシアの方々には初めての折り紙を非常に楽しんでおられました。



ワールドユースデー報告会が開催されました

10月18日に、7月26日から8月9日の15日間、カトリック教会主催のワールドユースデー2023年リスボン大会に日本公式巡礼団の一員として参加した、こども教育学科の2年次生のM.O.さんによる報告会が開催されました。



釜山国際カンファレンスに参加しました

国際日本文化学科の学生2名が10月29日から5日間、各国の学生と議論を通して国際交流することを目的に国際学生会議『The 9th International Students' Start-up conference』に参加しました。会議では様々な社会問題をテーマに、グループごとにその問題点と解決策を議論し、ビジネスモデルを発表しました。



01 学長メッセージポスターを制作しました 企画広報課

2023年10月14日、女子大学連盟総会が津田塾大学で開催され、「女子大学の意義」「女子大学で培われるリーダーシップ」などについて、23大学の学長たちが熱心に話し合いました。本学も、1月より学長メッセージポスターを学内外に掲示しています。本学中村学長のメッセージ全文は二次元バーコードよりぜひご覧ください。



02 「海外研修奨励制度」がスタートします 国際教育課

海外において多様な文化や言語に直接触れる体験を奨励するため、参加者に奨励金を支給します。詳細は4月の海外研修説明会にて説明します。開催日時はUNIPAでお知らせします。



対象者	本学学部生
対象となる研修	海外語学研修、海外キャリア実習、海外文化研修、海外ボランティア、国際学生会議等
給付金額	研修費用の半額(上限40万円)

03 キャンパスミニストリー室へ足を運んでみませんか? キャンパスミニストリー室

キャンパスミニストリー室は学生たちのためのほっとできるスペース。

- キャロライン館1階、入ってすぐ右。
- 火曜日～金曜日の12:00～17:30開室。
- おやつ、おひるごはん、勉強、作業などにどうぞ。
- 出入り自由。予約も申し込みもいりません。
- シスターのX(旧Twitter)ははじめましたのでフォローお願いします。

X(旧Twitter)の二次元バーコードはこちら



04 学習アドバイジング・教職課程支援のご案内 ND教育センター事務局

ND教育センターでは、文章作成の基礎などの学習アドバイジング、教職課程履修者への支援を行っています。

■ 文章作成アドバイジング

学習相談 文章作成の基礎に関する相談を、ND教育センター事務局で受け付けています。

オンライン講座 manabaで「文章作成の基礎づくり」を行っています。センターが提供する文章作成に関する課題に取り組むことにより、苦手意識を克服し、段階的に文章作成の基礎を身につけていきます。

■ 教職課程支援

教職課程に関すること、教員採用試験に関するガイダンス・説明会や対策講座、教職大学院や教師塾などの案内など。



スケジュール

SCHEDULE

2024年 3月 → 2024年 9月

本学のイベントは公式サイト上でもご確認ください。



- 在 在学生
- 卒 卒業生
- 教 教職員
- 保 保証人(保護者)
- 一 一般

2024年3月9日(土) 在 教 保

卒業式

時間/10:30～
場所/ユニソン会館大ホール
お問い合わせ/総務課
TEL.075-706-3700



2024年4月2日(火) 在 教 保

入学式

時間/10:00～
場所/ユニソン会館大ホール
お問い合わせ/総務課
TEL.075-706-3700



2024年5月18日(土) 在 卒 教 保 一

春の講演会「こうのとりのゆりかごから始まる第2の人生」

時間/15:00～16:30(14:30開場)
場所/ユージニア館NDホール
講師/宮津航一氏(子ども大学くまもと理事長・熊本県立大学総合管理学部在学中)
お問い合わせ/カトリック教育センター
info_event@ml.notredame.ac.jp



2024年6月1日(土) 在 卒 教 保 一

公開講座「京の雅・冷泉家の八〇〇年とこれから」

時間/14:00～16:00(13:30開場)
場所/ユージニア館NDホール
企画/国際日本文化学科
講師/公益財団法人冷泉家時雨亭
文庫調査員 二條絵美子 先生
お問い合わせ/研究推進課
kenkyu@ml.notredame.ac.jp



※参加申込方法等の詳細は公式サイトにて公開予定です

2024年9月26日(木) 在 教 保

前期卒業式・学位授与式

時間/10:00～
場所/ユージニア館聖堂
お問い合わせ/総務課
TEL.075-706-3700



その他のスケジュール

- 4/8:前期授業開始日
- 7/30-8/6:定期試験期間
- 8/8-8/16:事務取扱休止
- 9/27:後期授業開始

編集後記

▶マスクなしの生活が当たり前となり、本学で開催されるイベントも完全対面の形に戻りました。2023年秋に実施したND祭も制限なしで実施することができ、学生が学業以外のキャンパスライフを生き生きと過ごしている姿を見ることができました。学生のみならず教員の研究活動も以前のように戻ってきています。それぞれの活動は、本誌にてご覧くださいませ。(椀)

▶京都が学生の街と言われるのには、大学が多だけでなく、小さな盆地に古さと新しさが何とも言えない塩梅で共存していることが関係しているのでは。特に左京区は中心部から程よく離れ、休日の鴨川などは若者と大人が適度な間合いで過ごすのに格好の場所です。NDの学生も学外の方々と連携した活動が増えていて近頃とてもいいなと感じています。(祭)

編集担当：戦略企画室 企画広報課

京都ノートルダム女子大学 大学報 2024年3月1日

NDキャンパス通信 Vol.20

編集・発行/ 京都ノートルダム女子大学 戦略企画室 企画広報課
〒606-0847 京都市左京区下鴨南野々神町1番地
URL : https://www.notredame.ac.jp
E-mail: kikaku-koho@notredame.ac.jp
制作/ 株式会社WAVE

本誌は京都ノートルダム女子大学保護者会の資金援助を一部受けています。
※掲載している情報は制作時点(2024年2月中旬)のものです。

京都ノートルダム女子大学への

寄付のお願い

聖母マリアを校名にいただく京都ノートルダム女子大学は、建学以来、多くの皆さまからのご支援により支えられ、「徳と知」を兼ね備えた女性の育成を行って参りました。しかし、大学を取り巻く環境は年々厳しくなっており、優れた教育を学生へ提供し続けるために、教育活動や奨学金の強化等が不可欠となっています。

本学は2021年に創立60周年を迎えることができました。日頃より京都ノートルダム女子大学を応援していただいている皆さまに、教育充実を目的とした募金のご支援を賜り、皆さまとともに京都ノートルダム女子大学のさらなる発展をめざして進んで参りたいと思っております。何卒ご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

京都ノートルダム女子大学
学長 中村 久美

■ お申込み方法

I: 銀行振込によるご寄付

銀行・郵便局からご寄付いただけます。



<https://www.notredame.ac.jp/donation/furikomi/>

II: インターネット募金

クレジットカード、インターネットバンキング(Payeasy(ペイジー))、コンビニ支払のいずれか便利な方法を選択してご寄付いただけます。



<http://hojin.notredame.ac.jp/donation/>

III: 古本募金

皆様から読み終えた本・DVD等をご提供いただき、その査定換金額をご寄付いただく取組みです。



<https://www.notredame.ac.jp/donation/furuhonbokin/>

IV: ふるさと納税寄付金を活用した地域連携活動支援

寄付金については、京都ノートルダム女子大学及び京都市で取り組む、大学・学生と地域の連携促進事業等に活用されます。



<https://www.notredame.ac.jp/donation/furusato/>

ご報告

2022年度のふるさと納税寄付金を使って、「DXリカレント講座」を開講しました! (詳細はP.13を参照)
ご寄付いただきました皆さま、ありがとうございました。

Present

I: 銀行振込によるご寄付、II: インターネット募金による寄付を5000円以上頂いた方には、以下のうちご希望の品をお送りいたします。

- A: ND祭(秋開催)で使用出来るチケット
- B: 京都ノートルダム女子大学オリジナルグッズ、NDクリスマスカード送付(12月)

※領収書を送付する際に、返信用書類(メールもしくはFAX)を同封いたしますので、そちらでご希望の品物(AまたはB)をお選びください。

寄付金に関する
お問い合わせ

京都ノートルダム女子大学 管理運営部 財務課
E-mail: accounting@ml.notredame.ac.jp TEL.075-706-3703 FAX.075-706-3707